

生命保険の動的解約モデルの再検討

猪狩誠 松山直樹

2013年10月投稿

概要

生命保険の動的解約モデルには金利裁定の考え方をういた多くの理論研究があり、EV等の実務で利用されているモデルもその延長線上にある。その一方で、データ開示の制約から統計的実証研究は数少ないものの、それらは必ずしも理論的研究と整合的ではない。特に本邦の先行研究では金利の影響は金利裁定と逆方向となるという結果が得られているが、これらは一般には個社あるいは金利低下環境の特殊事情とみなされてきた。そこで本研究では、金利上昇期を含む長期観測が可能な生保業界ベースの保険解約件数データを用いて経済変数との関係を調べ、金利要因よりも失業率に代表される家計要因の強さで説明されることを示した。この事実を踏まえ、保険解約リスクへの対応方針のあるべき姿について考察した。

キーワード: 動的解約モデル, 金利上昇リスク, 流動性リスク